

ひとが生き生きと暮らすための情報誌

びよんど

Beyond gender

2017.3 VOL.41



特集 水戸市女性議会2016開催 2・3

座談会 私が考える議会のこと・市政のこと・これからのこと

～水戸市女性議会2016に参加して～ 4・5

ヒューマンライフシンポジウム2016 6

男女平等参画推進月間写真コンテスト入賞作品・男女平等参画社会づくり功労賞 7

さんかくデータ 8

男女共同参画都市宣言

美しい自然に恵まれ豊かな歴史を育んできた、わたしたちのまち水戸
わたしたちは、水戸のまちをさらに輝きあふれる明日へとつなぐため、「平等・創造・平和」を基本理念とし、男女がともにわかちあい、ともにつくる社会の実現に向け、水戸市を「男女共同参画都市」とすることを宣言します。

- 1 わたしたちは、ともに一人ひとりが尊重しあい、平等のもとに生き生きと暮らせるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに自らの意思で社会のあらゆる分野に参画し、次の世代へとつなぐ豊かでゆとりのあるまち水戸をつくります。
- 1 わたしたちは、ともに地球環境を守り、世界へ向けて、友情と平和の輪を広げるまち水戸をつくります。

平成8年4月1日

水戸市

※誌名「びよんど」は1997年、公募により命名されました。 Beyond gender(性差を超えて)の思いが込められています。ジェンダーとは、社会的性別のことです。



水戸市女性議会2016開催

平成28年11月21日(月) 水戸市議会議場



水戸市では、学生が市政の意思決定の場を体験することで、政策・方針決定過程への女性参画拡大のきっかけとするため、「水戸市女性議会2016」を開催しました。女性議会は40年前にも開催していますが、学生が議員役になるのは初めてのことです。当日は本物の水戸市議会さながらに6名の子供学生が真剣に市政について質問をし、高橋靖水戸市長が答弁をしました。学生が、市政をより身近に感じ、女性を中心に若者の視点をまちづくりに反映することにもつながりました。その白熱した様子は、水戸市のホームページでご覧いただけます。

出席者

詳細は… [水戸市ホームページ](#)

議員・質問者 茨城大学、常磐大学の学生28名
(そのうち6名の子供学生が質問者)

議長 村田進洋水戸市議会議長

出席説明員(市執行部) 高橋靖水戸市長、副市長、教育長、水道事業管理者、代表監査委員、消防長、全部長

代表質問及び答弁 (一部抜粋にて掲載)

鶴田 都子議員 (常磐大学3年)
水戸市では、女性活躍の流れが浸透するようキャリア教育が実施されていますが、どのような現状であり、具体的にどのような成果が期待できるとされるのかを伺います。

高橋市長
昨年度から茨城大学や常磐大学と連携しキャリアセミナーを実施しています。女性が自らのキャリアデザインを具体的にイメージできるとともに、男性にとっても、将来のパートナーのキャリアデザインや自分自身のワーク・ライフ・バランスを考えることができ、男女平等参画の醸成につながると考えます。さまざまな機会を捉えて、市民、事業所や関係機関等と連携をし、協力をより一層深め、女性が働きやすく、活躍できる社会の実現に向けて、積極的に取り組んでまいります。

永元 方貴議員 (茨城大学3年)
まちなかでの子育て支援として、「わんぱく・みと」のさらなる利活用を図るための方策、加えて中心市街地での子育て支援のサービス拡充などの政策をどのように展開していくかを伺います。

高橋市長
現在、「わんぱく・みと」では、講座や行事の際に、託児や運営スタッフ、さらに講師として、たくさんのボランティアの皆さんに支えていただいております。その中心となっているのは、子育てを終えた世代の方々ですが、今後はさらに、高校生や大学生の皆さんにもボランティアとして運営にかかわっていただき、まちなかでの幅広い世代による子育て支援・多世代交流の事業を展開していきたいと考えています。商店街で小学生を預かる学生による空き店舗活用事業は、大変参考になる事例であると思います。商店街などと連携をし、効果的な実施手法について検討を進めてまいります。



播田 実 澤議員 (常磐大学2年)

水戸市の第6次総合計画では、「おもてなし力の向上」を位置づけておりますが、水戸市が考える「おもてなし」とはどのようなことなのか伺います。

高橋市長
本市の考えるおもてなしについてですが、水戸の有する特色ある観光資源を磨き上げ、魅力を効果的に発信するとともに、海外からの観光客を誘致するインバウンド観光の推進に取り組み、何よりも、水戸を訪れる観光客を温かく迎える意識の醸成を図りながら、まち全体のおもてなし力を向上させ、水戸を訪れる方が楽しいと思っていただく、また来たいと思っていただけることが、真のおもてなしであると考えます。

大森 未稀議員 (茨城大学3年)

子どもの貧困対策について、市長の見解と生活困窮世帯への学習支援事業の開催状況、開催場所や対象の拡大など、今後の展望について伺います。

高橋市長
生活困窮世帯の子どもに対する学習支援事業を本年6月から実施しています。しかしながら、参加人数の伸び悩みや実施地区が全中学校区の4分の1程度にとどまるなど、さまざまな課題があります。保護者を含めた進路指導や生活に関する相談を行い、子どもの将来について一緒に考える機会を設けるなど、多くの子どもたちの参加を呼びかけてまいりたいと考えます。教育委員会との連携を図って、より多くの子どもたちが集い、学ぶ環境を整えてまいります。

大槻 奈菜議員 (常磐大学4年)

大学生や高校生、大人もお年寄りも自由に休んだり集合場所にできる場が、屋外にも屋内にも水戸にはありません。自由に活動のフィールドを中心市街地に持てるよう、拠点となる場をお示し願います。

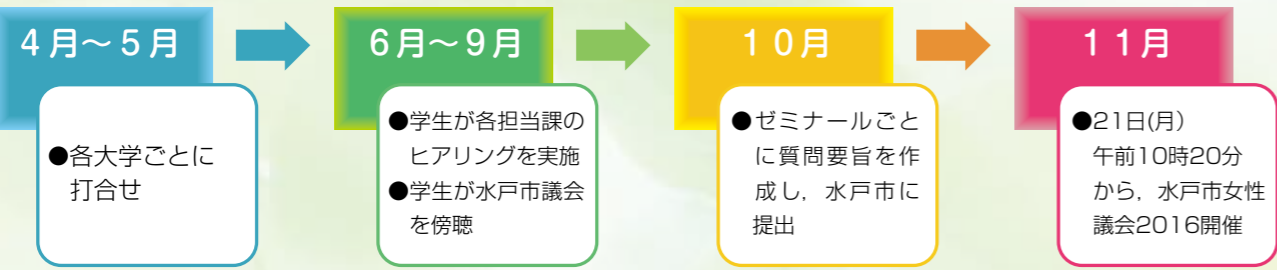
高橋市長
現在の中心市街地における学生を含めた市民活動や生涯学習活動には、市民センター、みと文化交流プラザ等を御利用いただいている状況です。新市民会館には、学生の皆様にも、自由に集い、自主的な活動ができるスペース等を設置していく予定です。学生を初め、若い世代の皆様が、まちなかで主体的な活動に取り組むことで、新しい感性や感覚がまちづくりに反映をされ、中心市街地の再生が大きく前進するものと考えております。今後、学生の皆様が求める機能と本市の拠点の考え方について、意見交換を行わせていただき、中心市街地活性化に係る機関や民間団体等も交え検討を進めてまいります。

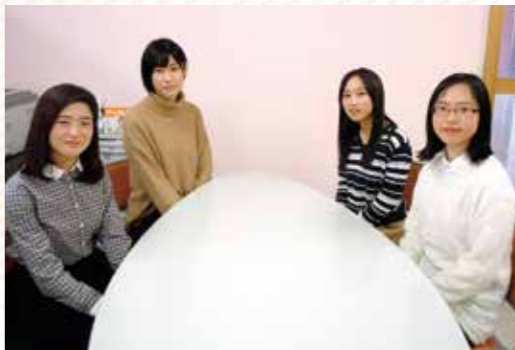
渡辺 莉奈議員 (茨城大学3年)

市民参加度チェックマニュアルや、無作為抽出による直接型住民参加という手法を、市民参加を促すための計画形成段階で取り入れることについて、水戸市はどうお考えになっているのか伺います。

高橋市長
チェックマニュアルの導入につきましては、多岐にわたる市の事業において、適切に市民参加・参画を推進していく手段として有効であるというふうと考えており、他市事例などを踏まえながら検討していきたいと考えます。無作為抽出による参加候補者の選出手法につきましては、みと魁プランの策定に当たり開催した水戸未来市民討議会において、初めての試みとして導入をいたしました。引き続き、さまざまな市民参加手法を積極的に取り入れて、市民と行政との協働によるまちづくりを推進し、笑顔あふれる安心快適空間、未来に躍動する魁のまち・水戸の実現に努めてまいります。

開催までのスケジュール





左から永元 万貴さん(茨城大3年)、大森 未稀さん(茨城大3年)、
鶴田 都子さん(常磐大3年)、渡辺 莉奈さん(茨城大3年)

座談会 私が考える 議会のこと・市政のこと・ これからのこと ～水戸市女性議会2016に参加して～

平成29年1月21日(土) みと文化交流プラザ 男女平等参画課

「水戸市女性議会2016」で議員役として質問をした女子学生のうち4名の学生が集まっていただき座談会を行いました。女性議会に参加して感じたことや、市政について、18歳に引き下げられた選挙権年齢などについて、また自分のライフプランなどについて、意見を交換しました。



—女性議会に参加することになったときの感想は？

永元 私は女性議会と聞いて、女性の目線で考えていかなくてはいけないうのかなと思いき、質問をどうすればいいんだろうと悩みました。

渡辺 参加することは自分の能力を高めることができるチャンスだと思いました。質問については、あまり女性ということを意識せずに水戸市の政策について考えるようにしました。

大森 女性が女性議員をやることの意味を考えました。これから仕事でも家庭でも女性が活躍していくのは、どういう問題があるのかなというのを考えて質問していけたらいいかなと思いました。

鶴田 そもそも議会の仕組みが分からなかったのですが、まず、議会って何かな

と思ひ、ひたひた市議会を一度傍聴しました。それを自分ができるのだろうかという不安が大きかったのですが、まずはやってみようと思いました。

—議員役として質問をすることを体験して、変わったことはありませんか？

永元 参加してよかったです。議会はこういう場所なんだと分かりました。水戸に引越してきて3年経ちますが、質問を作りながら、「私って、水戸の事全然知らないんだ」と気がつきました。もっと、市政に関心を持っていかなくてはならないと思いました。質問した政策については、今後どうなっていくのかという関心はあります。

渡辺 今までは、議会はそこに関わる人たちが分かるような難しい用語を使っていると思っていましたが、実際は市民にも理解してもらえようように努力しているということが分かりました。

鶴田 今までは、議会が開催される当分の部分だけしか見えていなかったのですが、当日を迎えるまで、色々なことがあり大変だと感じました。

—実際に体験してみても議会にどのようなイメージを持ちましたか？

永元 議会に参加してからのほうが、議会を身近に感じるようになりました。しかし、残念なことに市側の出席説明員は、圧倒的に男性が多いと思いました。

渡辺 ニュースでも意思決定の場に女性が少ないと言っているのですが、やはり

—次に男女平等参画についてお聞きします。理想の未来像は？

全員 仕事はずっと続けたい。キャリアアップをする手段として転職はありだと思っています。特に終身雇用である必要はないです。結婚出産は経験したいし、男性にも育児休暇は積極的にとってもらいたいです。



—どうして仕事を続けたいのですか？

渡辺 将来への不安感かと思えます。年金が十分にもらえるか分からない時代であり、また高齢者の定義が75歳以上になるかもしれないということを考えていくと、働いていかなければ生活していけないかなと。結婚をして夫に頼るだけでは、足りないかもしれないという不安ですね。

—もし結婚相手が、「主夫」をすると言ったらどうしますか？

そうなんだと思いました。以前よりも議会は身近に感じています。

—選挙権年齢が18歳になりましたが、どう感じますか？

大森 候補者がどのような政策に力を入れているのか、誰に投票するのが自分や社会にとっていいのかを、一人一人が自分なりに考えていくことが大事だと思います。



鶴田 周りの人と話していると、どういふ人がどういう意思を持って立候補しているのか分からないというんです。ネットでも調べられると思うので、調べる事をしていないで投票しないというのはおかしいと思います。しっかりと調べて政治に関わっていかないといいかなと思います。

が、この間ある企業の方に「育児休暇はどれくらい取得できていますか」と聞いたら「あまり取っていない」と言われました。制度があってもどれくらい利用しているのかというのをしっかりと冷静に見たほうがいいと思います。

—本日はありがとうございました。



市政や議会の事はもちろん、これから迎える就職などライフイベントについても沢山思いを述べていただきました。女性議会では堂々と質問をしていた皆さん。これからも水戸市に関心を持って見てくださるといふ皆さんの活躍を期待しています。

聞き手 男女平等参画課



平成28年度 男女平等参画推進月間写真コンテスト入賞作品

水戸市では、平成20年度から男女平等参画推進月間に合わせて男女平等参画社会の実現をイメージした写真コンテストを実施しています。

最優秀



「バトンリレー」
阿部 由香里さん

佳作



「イクメン故郷に帰る」
長谷川 修さん



優秀

「パパと楽しい散歩」
櫻井 律子さん



佳作

「夢の時間」
相馬 法仁さん



写真コンテスト
入賞者の皆さん



優秀

「将来のイクメンたち」
大沼 南輝さん



佳作

「仕事に男女の区別なし(男性給仕編)」
木村 圭介さん

男女平等参画社会づくり功労賞の受賞者ご紹介

水戸市では、平成18年度から「男女平等参画社会づくり功労賞」を創設し、男女平等参画社会の実現に向けて、あらゆる分野において積極的な取り組みをしている個人や団体、事業所を表彰しています。



功労賞受賞の
皆さん

●個人の部

高柳 美智子さん

千波湖周辺の公園と自然を愛する市民の会初の女性会長や、水戸リングの会の会長など、女性リーダーとして、地域の女性の社会参画促進のため他の模範とされています。また、県教育委員会初の養護教諭からの学校保健担当指導主事となり、学校保健の充実、養護教諭の資質の向上、女性の職業観、社会参加への意識向上に大きく寄与しました。

●団体の部

水戸市農村生活研究グループ連絡協議会

農村地域において、生活研究を実行している自主的女性グループが、生活の創意工夫を家庭から地域へ発信する活動をしています。次世代に伝えるべく食農教育や、若手の女性農業従事者の育成にも力を入れています。

●事業所の部

株式会社ビジネスコンサルタント

保険業界は女性のパートが多いと言われる中、全員が正社員です。仕事に男女差はないという代表取締役の考えにより、女性の視点からの発想を大切に、役員やリーダーへ積極的に登用することにより、社員の意欲向上を図っています。

開催
報告

ヒューマンライフシンポジウム2016

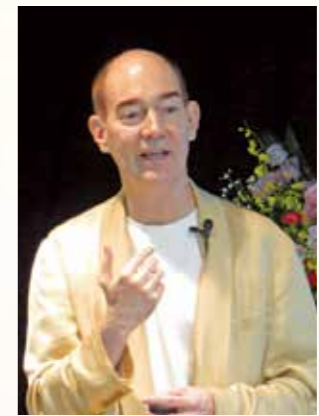
ひとひと 女と男 未来へつなぐメッセージ

平成28年9月11日(日)、みと文化交流プラザ6階において、日本文学研究者で東京大学大学院教授の、ロバート キャンベル氏をお迎えし、お話をいただきました。



日本語には、男性の言葉と女性の言葉があり、一人一人がどういう話し方をするかによって、その人のセクシャリティやジェンダーが瞬時に判断されます。英語では、「I」は一人称で万能です。老若男女、全ての人々が、同じ一人称を使って自分のことを言います。

日本語の人称一つをとってみても、話している人、誰に向かって話をするか、その話を受け止める人のジェンダーは、英語や仏語、独語とは違って、鮮明にさせることがあります。社会的な立場や、性というものは一人一人にとっても大切で、男性は男性、女性は女性のように使い分けられます。はっきりしていることは、敬語も謙譲語も相手を気遣いながら、自分のアイデンティティを押し出している言葉が日本語だと思います。ただ、外国人にとって面食らうことは間違いありません。



「日本ってどんなところ?」
文学からジェンダーまで
東京大学大学院教授
ロバート キャンベルさん

私の専門の日本文学を見ると、男性は男性らしく、女性は女性らしく話さないというところは逆に、純文学では、リバーシブル、ユニバーサルといいますが、ジェンダーというのは、実はすごく自由だと感じることがあります。

日本語は、社会の中での持ち場や、男性、女性としての分業により言葉を生みだします。これは欧米社会にない自由な想像力で、男女が入れ替わったりしたらどうなるかなど、日本文化には強いものがあると思います。

五年前の東日本大震災で、津波による莫大な被害で海岸線の緑、人命、財産が失われました。自然災害の備えとして、海岸線に防砂林をつくらうと2012年から「鎮守の森プロジェクト」活動を始めました。私は、最初からこのプロジェクトに関わっていて、理事をしています。毎年秋に東北を回って、何十万個ものドングリを拾って、それを発芽させ、二三年育てて、海岸線に植樹します。この秋も、全国からたくさんの方が来て一緒にやります。多くの人達が一つのことを達成するために、十萬本の苗を植えるのです。集まって情報交換しているのです。日本人は、共通の目標をもって、力を合わせようとする時、性差別や人種差別、そういう差別がすぐ抑えられます。外国からの観光客もたくさん来て、一緒に泥だらけになり、日本に二週間滞在するその中の貴重な半日を、木を植えるだけのために、わざわざ宮城まで来て、とても嬉しそうにしています。

初めて日本人の別の表情を見ることができて、作業をしながら普通の会話をすることができてとてもよかったです。

「すごくよくしてもらった。」と観光客が言っていました。こういうきっかけで語り合う日本人は天才だと思います。日本人は互いに気遣いながら、気配を感じながら、自分の仕事を通してつながっているのではないのでしょうか。今、アメリカは大統領選で変わろうとしています。イギリスもEUから脱退するし、フランスやドイツでも、もともとそこにいた人達が、そうでない人達を否定して排除して、生活の範囲をせばめる。この一年ぐらい一つの危機として、こういう様々なサイン・格差・差別が大きな問題になってきています。

最後に、日本はどうか。とりあえずポピュリズムや他者を排除するような動きは、日本でこれ以上熱くなり膨張していくことは、私の見る限り欧米に比べて少ないのではないかと思います。しかし、同時にヘイトスピーチがあったり、ヘイト宣言があったりと、今も各地で起こっています。学校でのいじめの問題、家庭でのDV、職場でのセクシャルに対する差別など、様々な課題があります。自分の足元を見つめて、自らの心で考えながら、生きやすい動きやすい社会を、どのようにつくっていくか、外に目を向けて発信していくことがこれからの日本には求められているのではないかと感じています。



さんかく データ ジェンダー・ギャップ指数 (GII)

(表1)ジェンダー・ギャップ指数 2016
主な国の順位

順位	国名	値
1	アイスランド	0.874
2	フィンランド	0.845
3	ノルウェー	0.842
4	スウェーデン	0.815
5	ルワンダ	0.800
6	アイルランド	0.797
7	フィリピン	0.786
8	スロベニア	0.786
9	ニュージーランド	0.781
10	ニカラグア	0.780
13	ドイツ	0.766
17	フランス	0.755
20	英国	0.752
35	カナダ	0.731
45	アメリカ	0.722
50	イタリア	0.719
75	ロシア	0.691
99	中国	0.676
111	日本	0.660
116	韓国	0.649

内閣府男女共同参画局「共同参画 2017年1月号」より

(表2)ジェンダー・ギャップ指数 分野別の日本の順位

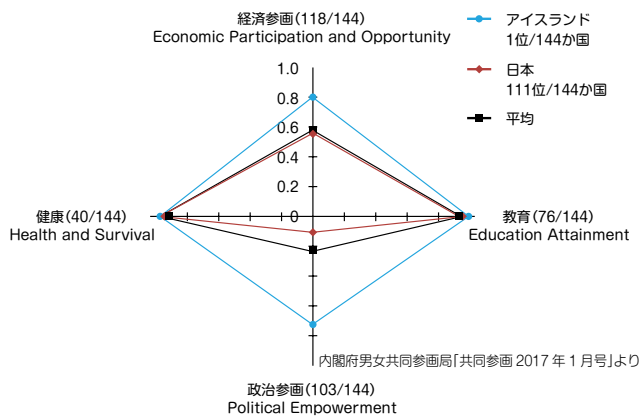
分野	順位	値
経済	118位	0.569
教育	76位	0.990
健康	40位	0.979
政治	103位	0.103

各分野の内容

- ・ 経済分野：労働力率、男女間の所得格差、管理職・専門職での男女比
- ・ 教育分野：識字率、初等・中等・高等・専門教育への就学・進学率
- ・ 健康分野：出生時の性別比、平均寿命の男女差
- ・ 政治分野：国会議員、閣僚の男女比、最近50年の国家元首の在任年数

世界経済フォーラム「The Global Gender Gap Report 2016」より作成

(図1)ジェンダー・ギャップ指数 各分野の日本の順位と比較



内閣府男女共同参画局「共同参画 2017年1月号」より

世界経済フォーラムが2016年10月に各国（144か国）における男女格差を測るジェンダー・ギャップ指数（GII：Gender Gap Index）を発表しました。（表1）

この指数は、経済、教育、健康、政治の4分野のデータから作成されます。0が完全不平等、1が完全平等を意味しています。2016年の日本の順位は、昨年の101位（0.670）から更に順位を下げ111位（0.660）となり、先進国の中でも、最低レベルとなっています。経済フォーラムによれば、この順位の変動の要因として、勤労所得男女格差の推計を行うに当たり、今回から推定勤労所得の上限が引き上げられており、先進国はその影響を受けることとなったことが1つとされています。

日本の順位を分野別で見ると（表2）、健康分野40位（昨年42位）、教育分野76位（昨年84位）と順位を上げていますが、経済分野118位（昨年106位）、政治分野103位（昨年104位）となっています。政治経済活動や意思決定に参加する機会においては、（図1）の、ジェンダー・ギャップ指数第1位のアイスランドと比べてみても、男女間の格差が大きいことが分かります。

男女平等参画社会推進のために・・・

■男女平等参画推進委員会

男女平等参画社会の推進のために設置された、市民・事業者・学識経験者から構成される委員会です。総合的な施策と重要事項を調査審議します。

■男女平等参画苦情処理委員会

男女平等参画に関する苦情の申し出を、公平・中立な立場に立って調査し、解決を図っていきます。詳細は、水戸市男女平等参画課までお問い合わせください。

編集後記

40年ぶりの女性議会が開催されました。後日座談会を開催し、議員役として登壇した女子学生の方々と話をしました。皆さんの思いを聞いて改めて、女性の力をもっと意思決定の場に増やしていきたい、いや、いかなくはないかと思った有意義な時間でした。（Y）

発行日／平成29年3月 発行／水戸市
編集／男女平等参画課
〒310-0063 水戸市五軒町1丁目2番12号
みと文化交流プラザ5F
TEL 029-226-3161 FAX 029-226-3162
ホームページ／<http://www.city.mito.lg.jp>
印刷／関東印刷株式会社

